

山行報告書

通算山行NO	NO・137S	報告者	加藤 秀子
年月日	98年11月06日(金曜日)～	年11月07日(土曜日)	
山行名	冬山訓練・1	天候	晴れ
山名	空木岳(うつき・2,864m)		
この山のセールスポイント	花崗岩の白砂に林立した岩峰は迫力大		
コース 及び タイム	6日)裾野13:00→伊那川ダムゲート・テン泊地17:30 (7日)起床3:00/4:30 金沢土場分岐5:52～うさぎ平(林道終点)6:10～河原7:12～7合目8:12～8合 8:55～木曾殿山荘10:07～空木岳頂上11:52～摺鉢窪避難小屋13:30(14:25)		
標高差	△Sゲート 1080 ~T 空木岳 2864 = 1,784m ▼T ~G m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
走行距離	~ = km	技術度	1・2・③・4・5・6
		展望度	1・2・3・4・5・⑥

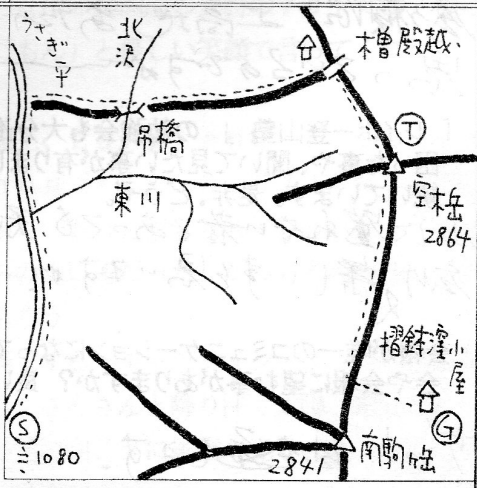
参加者	CL	藤 隆 51	標高差1,700 は半端ではない	調 八代 62	始めの林道でバテた。
	SL	根 田 禎 62	花崗岩の頂上は素晴らしい	藤 紓 49	さすが百名山!美しい山です
会員 4名・一般 0名・合計 4名					

シンと静まり返った山間の谷間でレイホーのテントが目覚めた。ユラユラとローソクの淡い灯りのなかで早速朝食の支度にかかる。昨夜は今日の行程を考えて早く寝たのが幸いしてか腹が空いた。湯気のある、餅入りうどん雑炊をハフハフ言いながら食べ、高岡差入の今年初の自然薯をズルズル喉にかき込み、珍しくお腹が膨れる迄食べこんだ。

今日はA案・B案・C案とあるコースのうち皆の体調と天候の様子で・・・という事でどのコースか決めかねていたが、朝食のミーティングで一番行程が厳しいA案のコースが決定された。伊那川ダムから林道を2時間歩き、7合目・8合目、木曾殿山荘経由の空木岳～摺鉢窪避難小屋泊である。テント撤収も素早く、予定より30分も早い出発となる。

CL21K・加藤20K・大根田17K・高岡16.5Kと背中荷はズッシリと重い。緩やかなアスファルトの林道は、歩けども歩けども捗らず、背骨がキシキシ悲鳴をあげる。この林道をCLは駆けるような速さで黙々と歩くが、私達は後を追うのが必死であった。林道終点のウサギ平で小休止。吹き出した汗を拭い、衣服の調整をし、息を整える。

此処からは樹林帯の登山道に変わる。『アスファルトより歩き易いね』とホッとしたのも束の間、穂高の天狗尾根に勝るとも劣らない程の急登だ。樹林帯の中は薄暗く苔むして、剥き出した木の根が足元に危ない。一旦トラバースして下り、木の吊り橋を渡った所



木曾殿小屋は昔をしのぼせる流い小屋、このままがイイ。

で遅れ始めた高岡・大根田を待つ。高岡は珍しくバテているようだ。会長が大丈夫か?と心配しながら毎週山行している高岡に、大きな山行の前は少し控えるように・・・とコツテリさりげなくアドバイス?していた。前週、富士登山で耳が痛い加トーは聞こえないふりをして無心に、無心にリンゴを食べていた。

7合目迄の急登は脇目もふらず無我夢中である。景色もへったくれもない。8合目も過ぎ、道が少し緩やかになってくるとすぐに木曾殿山荘だ。右手には空木岳へ通じるガレた道が天に向かって延びている。花崗岩の白い砂が眩しい。9月、会員の飯塚・河野が空木岳を目指して来たが、天候が悪く此処で断念したと会長に報告があったようだ。木曾殿山荘横の階段を上がり詰めると、目の前は本当に清々しい展望が開ける。遙か遠くに御岳山が、堂々とした申し分のない山谷を見せ感嘆する。此処で高岡・大根田を待っていたが、風が出始め寒く無線をとりながら先を行く事にした。急登のガレ場を少し登ると、木曾殿山荘はるか下に2人の姿が見える。大丈夫か?の問いに元気な声が返ってきた。

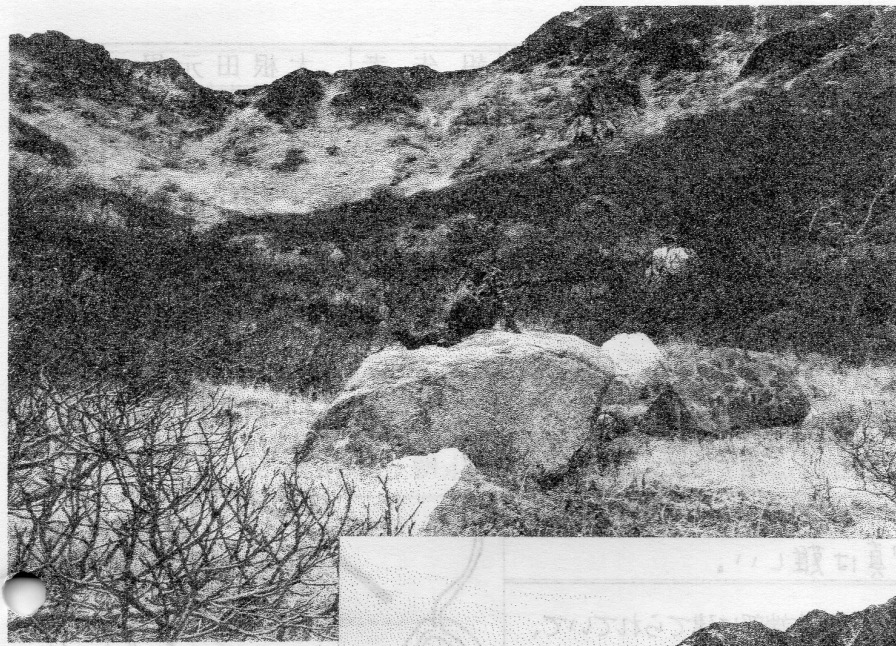
行く手は林立した岩峰だ。その間を縫うように這い上がる。花崗岩の岩は丸い粒状の小さな石を接着剤でくっつけた様なプツプツした感じで、触るとイガイガと痛い。もし滑って擦りでもしたら一皮剥けそうだ。所々に新雪があった。段差の大きい岩場をウンコラショと身体を持ち上げ、ピークに着いて頂上かなと思うとまだその先が続いている。確かに奥が深い。幾つかのピークを過ぎてやっと頂上に着く。頂上は狭いか小奇麗で展望がよい。甲斐駒・仙丈・鳳凰三山と懐かしい山が連なって見える。大根田に無線で頂上着を伝え、又先に行ってお湯を沸かしておくからと言い残し先を急ぐ。

ハイマツ帯の尾根は風がピューピュー吹きさらしで寒い。手はかじかみ、口は強張り言葉が滑らかに出てこない。幾つかのアップダウンを繰り返し、やっと左下に摺鉢窪避難小屋が見えた時は嬉しかった。葉の落とした丈の低い岳樺が美しい。抜けて草原みたいな場所に小屋はあった。鍵は開いていて真ん中の通路の両脇に板の間がある。左は使い捨ての釜やらボトルやらとてつもなく汚い。使って帰る時は、来たとき以上に綺麗にして帰るものだ。わいほーの会長の教えは当たり前の事だ。右側を箒で掃き、その上にテントを張る。

飲みながら待つ事1時間。思った以上に早く2人が到着。高岡が空木から、何時ものペースを取り戻したらしい。ニコニコ元気に入ってきた。やっぱりこうでなくちゃ〜。かんぱ〜い!夕食はシャブシャブだ。今日は上等の霜降り牛肉だ。おいしいよ。言っているうちにCLが鍋に全部突っ込んでしまった。本当は一枚ずつ鍋の中でさらすように食べるはずだったのに〜。でも、肉汁がスープに溶け込んでうまかった。

ホカホカと湯気のアがる鍋を囲んで夜はふけていく。明日の朝も早い。今夜は冷えるかな?

1. 林道2日は結構長い。2. 仙人の水場は何とか流れる。義仲の水場はチョロチョロ。3. 木曾殿山荘は冬期小屋(殆ど倉庫)が一応使える。4. 摺鉢窪小屋は水、トイレなし。5. 摺鉢窪カールは非常に美しいところ。夏は花が多そう。

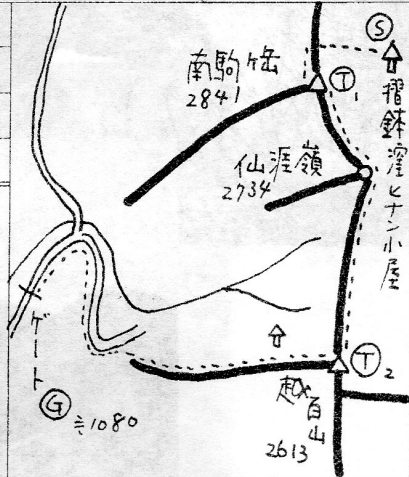


南	山
分	山
和	(前) 日 山
白	山
入	山
変	山
▼	山
ス	山
12	山
80	山
10	山
04	山



- (上) 摺鉢窪カールにて
- (中) 正面に南駒岳をみて空木岳を下る
- (下) 木曾殿越から空木岳の登り

山名	南駒ヶ岳 (2,841m) ・越百山 (2,613m)		報告者	大根田元男
この山のセールスポイント	花崗岩・岩稜帯のパノラマ歩き			
11月8日(晴)コース及びタイム	起床3:00～摺鉢窪避難小屋4:23～南駒ヶ岳5:10～仙涯嶺6:10～越百山7:28～越百避難小屋8:08～福栃橋10:05～伊奈川ダムゲート駐車場10:37→裾野			
標高差	△ 避難小屋～南駒ヶ岳 = 291m (2,550) (2,841)	体力度	1・2・3・④・5・6	
	▼ 南駒ヶ岳～駐車場 = 1,761m (2,841) (1,080)	技術度	1・2・3・④・5・6	
		展望度	1・2・3・4・5・⑥	
CL	後藤 隆徳 51	念願の越百山へ登った		
	大根田元男 62	雲上に浮かぶ南アルプスは良い		
	高岡八千代 61	一口では言えない。		
	加藤 秀子 49	写真は難しい。		
2日目	摺鉢窪避難小屋はカール末端部に建てられていて、少し下ると崩れ落ちた崖になっている。小屋に泊まったのは我々だけで、小屋内にテントを張り暖かい寝室になって皆よく寝られたようである。3時にCLに起こされたがもう少し寝袋の中にいたかった。予定どうりの行動をとらなければならないので仕方がない。小屋の外に出てみると、尾根筋と上空にガスがあったが、伊那側の街明りが延々と続いているのが望見でき今日の好天候を確信する。			
	明け方は冷えるので、目出帽・手袋と冬支度で小屋を後にする。ヘッドランプの明りでジグザグ道の歩きにくいガレ場の急登である尾根に出る迄に汗が滲んできた。尾根に出ると木曽側から吹いて来る強風で身体がグラつく。早く風が弱まってくれば良いのと思った。休む事なく、黒々と聳える南駒ヶ岳の岩稜帯を登って頂上に立つ。			
	CL・加藤は歩くのが早く付いて行くのが精一杯。昨日の疲れが残っているようで足が重い。頂上は未だ薄暗いので小休止のみで通過する。岩場・砂礫地は滑りやすく足元に注意して慎重に下る。這松帯の藪漕ぎの登り。這松の中には残雪が少しある。尾根道を伊那側へ木曽側へと、行ったり来たりと岩場をトラバースする歩きで変化に富んでいる。			
明るくなってきて景色が見えてきたが、岩に攪りながら登るので景色を見るゆとりがない。仙涯嶺(せんがい)頂上に着いて間もなく、塩見岳方向より日が昇り出し、暫し御来光に見とれる。山の上から日の出を見るのは、何処の山へ行っても清々しくてよいものだ。頂上は大パノラマであるが、日が昇ったばかりで遠くの山並みは未だ黒ずんで見えるだけ。雲海だけは白く波打っているのが綺麗に見える。越百山(こすも)へは緩やかな登りで歩きやすく有難い。頂上に着き、もう登りがないと思うとホッとした気持ちになる。CLは周囲の山々を同定するのに忙しい。南アルプスの山々が凹凸に見えるが、どの				



摺鉢窪はカール地形の美しい所、一度は訪れてみたい。

頂きが河山かわかりにくい、ハケ岳はよくわかる。鋸岳のギザギザした尾根、甲斐駒ヶ岳は恰好よく遠望できた。御岳山のどっしりした裾を広げている姿もよい。十分にパノラマを堪能し下山に入る。越百避難小屋はこじんまりしてよい。水も水道になっていてコックをひねったら水が出た。下りは全員揃って歩いて、話を弾ませながら原生樹林帯を早足で下る。この間一ヶ所だけ、林の間から南駒ヶ岳を望めただけであと視界はなかった。林道に出て溪谷に沿って紅葉を楽しみながら歩き駐車場に着いた。今回の山行は天候に恵まれて大変良かった。

自然の記述

1. マップに水場と記されている所が2ヶ所枯れていた。
2. このコースは、あまり歩かれてなく、岩稜のアップダウンが多くよいコースである。
3. 越百小屋には冬期小屋あり。



(上) たおやかな
越百山に

(下) 静かなたず
まの越百
小屋
向うに南駒
を仰ぐ

